

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成 19 年 2 月 22 日 (2007.2.22)

【公開番号】特開 2005-218569 (P2005-218569A)

【公開日】平成 17 年 8 月 18 日 (2005.8.18)

【年通号数】公開・登録公報 2005-032

【出願番号】特願 2004-28425 (P2004-28425)

【国際特許分類】

**A 6 1 B 1/00 (2006.01)**

**G 0 2 B 23/24 (2006.01)**

【F I】

A 6 1 B 1/00 3 1 0 H

G 0 2 B 23/24 A

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 12 月 28 日 (2006.12.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

内視鏡挿入部の湾曲部からそれぞれ延出し、上記湾曲部を少なくとも 2 つの方向に湾曲操作する一対の操作ワイヤと、

上記一対の操作ワイヤが巻き付けられたプーリを有するプーリユニットと、

上記一対の操作ワイヤの基端部にそれぞれ設けられた口金部と、

上記プーリユニットに回動自在に保持された、係止部と、を備え、

上記プーリユニットの係止部に上記各口金部をそれぞれ係脱自在に保持することにより、上記一対の操作ワイヤをそれぞれ牽引弛緩して上記湾曲部を湾曲操作することを特徴とする内視鏡装置。

【請求項 2】

上記係止部に、上記操作ワイヤが挿通される挿通路が形成されていることを特徴とする請求項 1 に記載の内視鏡装置。

【請求項 3】

上記口金部には、上記操作ワイヤのテンションを調整するための調整ねじ部をさらに有していることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の内視鏡装置。

【請求項 4】

上記プーリユニットは、上記プーリに巻き付けられた上記一対の操作ワイヤの上記各口金部を、1 つの上記係止部により係脱自在にそれぞれ保持することを特徴とする請求項 1 に記載の内視鏡装置。

【請求項 5】

上記プーリユニットは、上記プーリに巻き付けられた上記一対の操作ワイヤの上記各口金部を、一対の上記係止部により係脱自在にそれぞれ保持することを特徴とする請求項 1 に記載の内視鏡装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 8

【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【0008】

上記目的を達成するために本発明による内視鏡装置は、内視鏡挿入部の湾曲部からそれぞれ延出し、上記湾曲部を少なくとも2つの方向に湾曲操作する一対の操作ワイヤと、上記一対の操作ワイヤが巻き付けられたプーリを有するプーリユニットと、上記一対の操作ワイヤの基端部にそれぞれ設けられた口金部と、上記プーリユニットに回動自在に保持された、係止部と、を備え、上記プーリユニットの係止部に上記各口金部をそれぞれ係脱自在に保持することにより、上記一対の操作ワイヤをそれぞれ牽引弛緩して上記湾曲部を湾曲操作することを特徴とする。

## 【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0098

【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【0098】

また、一対の湾曲操作ワイヤを、プーリユニットの円板部材に回動自在に配設された一対の係止部材の挿通路に挿通させ、一対の湾曲操作ワイヤの係止口金を、一対の係止部材の係止面において係止するようにした。